

研修報告書 No.11

所 属： 昭和大学病院

氏 名： 田村 充

研修先： 土佐市民病院

この度高知県土佐市民病院で1ヶ月研修をさせていただきました。感想を兼ねて今後の地域医療の展望を記させていただきます。

まず、地域の人柄の良さを感じました。医療者をはじめ地域のスタッフが東京から来た私を仲間として暖かく受け入れていただけました。

主に外来での初療を担当させていただきましたが、外来では高齢になったご両親のために、親身になって医療者へ質問をして、よりよい医療の提供のために医療情報を提供してくださる患者さんのご家族の姿が印象に残っております。高齢になり車の運転ができなくなってしまったご両親の代わりに病院まで車出しをするだけでなく、まるで自分のことのようにご両親の健康を心配するご家族をみて、私も見習いたいと思いました。

高知県の中で土佐市での研修をさせていただきましたが、自転車を少し漕ぐと近くには仁淀川というとても綺麗な川が流れていて、心が澄み渡るような心地良さを感じることができました。

私が東京で主に経験した研修というものに関してですが、医師の数が多いこともあり研修医として働く部分はわずかであり、気遣いや手助けが主な仕事で自発的な行動を起こすことが難しかったことを覚えております。高知県では外来を経験させていただき、患者さんの話を聞いて鑑別診断を考えて侵襲の少ない検査から実施して、症状を緩和していくといったことを経験できました。外来における処世術の大切さを学びました。例えば発熱、咳や呼吸苦でこられた方にまず問診、聴診などの身体所見をとり、血液検査、新型コロナ抗原検査、胸部レントゲン検査をオーダーするとします。40代男性、2日前から症状に悩まされ、発熱は37℃台と微熱であり、聴診上呼吸音は清であり、抗原検査は陰性、胸部レントゲンにて明らかな肺炎像は認めず、血液検査上炎症反応はありません。特に既往歴もなく、レントゲン検査上精査が必要となるような異常影は観察できていないとすると、まだ若い方ですのでできる限り被曝による影響を避けるためにCT検査の必要性はないと判断し、咳止め、解熱剤の処方提案します。本人の希望によりこれ以上の症状悪化を防ぎたいということであれば、細菌感染の合併による症状悪化を防ぐ薬を処方します。症状の遷延、呼吸苦の悪化を認めた際に再診していただくようにします。気管支喘息なども同様の症状をきたすことがあります。症状からまだ日が浅いため感染兆候にスポットを当て、限られた時間の中でできる限りの医療を提供することが必要であると感じました。

私が外来で経験した症例の中で最も印象深い80代の女性がいました。3日前からの38℃台の発熱、咽頭痛、食思不振の訴えのある方で、今までに病気をしたことがない方でしたが、今回食事とることができないほどの喉の痛みがあり、とても苦しそうでした。口腔内を観察すると扁桃に白苔付着、前頸部に痛みを伴うリンパ節腫脹を認めました。咳がないというのも特徴的であり、咽頭ぬぐい液によるA群溶連菌検査を追加しました。結果は陰性でしたが、Centor criteria4点

であり溶連菌感染症としてサワシリンを処方しました。ご家族の方に同じ浴槽につかっても大丈夫ですかと訊かれましたが、自らの不勉強故にその場では分からず、感染が波及するような話は聞いたことがなかったので基本的には問題ないと答えました。後に上級医に確認したところ正しかったのですが、わからないことに関してわからないという勇気、そしてその場で調べて一つ一つ吸収していく必要性を感じました。5日ほどしてから患者さんがお見えになり、すっかり良くなったと仰っていただきました。この職業に携わって本当によかったと達成感を感じることもできた瞬間でした。患者さんとの対話においてやはり看護師さんの存在は不可欠でした。「～ちゅうきねえ」という高知独特の方言も、和気あいあいとした雰囲気作りに一助していたのだなと懐かしく思っております。経験に加え高知観光もできたことで達成感は増しております。またいずれ機会があれば高知を訪れ、当時の自分を客観的に捉えることができればと思います。1ヶ月ありがとうございました！